

# abc/EQIDEN 問題作成の手引き

## はじめに

abc/EQIDEN(以下、「abc」)では、毎年 70 名以上の社会人の方々から、計 4000 問以上の問題提出のご協力を受けています。これらの問題はそのまま出題されるわけではなく、選定班が問題文の修正や再度の裏取りを行った上で、最終的に 1300~1400 問に絞り込んで本番での出題に至っています。

本文書は、これまで以上に多くの社会人の方々に abc への問題提出をしていただくことを目的として、特にはじめて問題提出を行う方に向けて、問題作成時に注意すべき点をまとめたものです。ご自身の問題作成のご参考にしていただければ幸いです。

なお、本文書は、2017 年に abc/EQIDEN 実行委員会名義で公開した”Question Writing Guide”と趣旨を同じくし、内容の改訂版にあたります。

また、問題提出経験者のうち希望する方には、各年で作成している問題募集要項をお渡ししています。そちらもぜひお読みください。

なお、本資料はあくまで abc/EQIDEN という大会で出題される問題のルールとなりますが、個人で主催する大会で本手引きを参考にしたいという方につきましては、本資料を抜粋含めご自由に利用いただいて問題ありません。

## 【目次】

1	裏取りを正確に行おう .....	2
1.1	適切な出典 .....	2
1.2	出典記載のルール .....	3
1.3	「限定」に注意！ .....	4
2	知名度の高い題材を出そう .....	6
2.1	昔の出来事／最近の出来事の出題基準 .....	6
2.2	その他の理由による NG 題材 .....	6
3	問題文のスタイルを守ろう .....	8

3.1	スタイル .....	8
3.2	文字数の規定 .....	8
4	違和感のない問題文にしよう .....	9

## 1 裏取りを正確に行おう

問題文に書かれている事柄が正しいということを確認する行為が「裏取り」です。確実な裏取りができているということは、本大会の問題採用において、もっとも重要なことです。次のチェックポイントに基づいて、裏取りを1問ごとにしっかりと行ってください。

### ポイント 1: 思い込みではなく、資料を当たって問題を作っていますか？

自分の記憶だけに頼って問題を作るのは避けるべきことです。記憶には常に勘違いや覚え間違いがつきまといまふ。確実な記憶であっても、出来る限り資料を当たきましょう。

### ポイント 2: 時間の経過によって、事実が変わっていませんか？

時間の経過によって、過去の時点では正しかった事実が誤りに変わっていることは多々あります。「これは事実が変わっているかもしれない」と一瞬でも思ったら、面倒くさがらずに調べてみましょう。

### ポイント 3: 資料の写し間違い、読み間違いはないですか？

馴染みの薄い固有名詞や年号などの数字、濁音・半濁音(「ば」と「ぱ」など)などは、写し間違いが多くなりがちです。

パソコン上で問題作成をする場合、こうした紛らわしい語は、自分で打ち込むよりもコピー・アンド・ペーストを利用するほうが確実かもしれません。

### ポイント 4: 資料の内容を正しく読みとれていますか？

難解だったり馴染みのなかつたりする分野を題材にして問題を作成するときには、資料の内容の解釈を誤って、事実と異なる問題文を書いてしまうおそれがあります。

問題文に記載した内容が情報源に正しく記されているかどうか、必ず確認しましょう。

### 1.1 適切な出典

abc の問題提出にあたっては、1 問ごとに辞書の記載をお願いしています。辞書にできるのは書籍、事典・辞書の項目、新聞記事、インターネット上の文書・資料などです。

しかし、注意していただきたいことですが、インターネット等に書かれている情報がすべて正確であるとは限りません。特に、Wikipedia や個人運営のウェブサイトは誤情報が含まれていることも少なくないため、信頼性の高い情報源にはなりません。これらのウェブサイトの内容が参考文献に依拠して書かれていたとしても、記事を書く人の誤読や書き写し間違いなどがあるおそれもありますので、[必ず原典にあたる](#)ようにしてください。

#### ポイント:信頼に足る情報源を辞書としていますか？

Wikipedia や個人運営のウェブサイトは辞書にしないでください。ウェブサイトでは、たとえば教育機関・官公庁のホームページや、インターネット百科事典サービスのコトバンクなどが辞書とするのに便利です。

## 1.2 辞書記載のルール

辞書の記載にあたっては、引用する辞書の種類ごとに以下フォーマットに従ってください。大会スタッフは、皆さんの示した辞書を再度参照して、問題文の裏取りを行っています。正確かつスムーズに裏取りを行うため、辞書はルールに沿って記載するようお願いいたします。

### ◆書籍の場合

著者（编者）名、書名、出版社名、出版年、ページ数

例: 諏訪部浩一・編、『アメリカ文学入門』、三修社、2013 年、p.168-169

### ◆事典・辞書の項目の場合

項目名、辞書・事典名、出版社名

例: 「フランスパン」、日本大百科全書、小学館

### ◆新聞記事の場合

記事タイトル、新聞名、日付、朝刊 or 夕刊、ページ

例: 「アフリカ投資潜むリスク」、日本経済新聞、2016 年 8 月 29 日、朝刊、1 面

### ◆インターネット上の文書・資料の場合

ウェブページタイトル、URL(参照箇所)

例: 統計局ホームページ/人口推計の結果の概要、

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly> (「平成 28 年 8 月報 (平成 28 年 3 月確定値、平成 28 年 8 月概算値)」参照)

### ★新聞社のウェブサイトの記事の引用の仕方は？

昨今では各新聞社がウェブサイト上に記事を掲載することが多くなっており、それを引用して問題を作成される方も少なくないと思います。この場合、引用の方法は「インターネット上の文書・資料の場合」に従ってください。

一方で、紙媒体の新聞記事を引用する際には、「新聞記事の場合」に従ってください。

#### ポイント:出典をルールに沿って記載しましたか？

出典の記載がない、もしくは「ネット辞書・検索サイトより」など、漠然とした出典欄の記入では、あなたが情報源とした出典をスタッフの手でたどることができません。ルールに沿った出典の記入をお願いします。

### 1.3 「限定」に注意！

問題の答えを一意に絞れるように情報を盛り込むことを、「『限定』を効かせる」と呼ぶことがあります。

大会では、時に1問の正誤判定が参加者にとっての天国と地獄の境目となります。だからこそ、判定の誤りを絶対に起こさないために、[しっかり答えを限定できる問題文](#)にしていだくようお願いします。

#### ポイント 1: その問題文から、2 つ以上の答えが考えられませんか？

例えば、答えから問題文を作る場合、その「答え」に思考が引っ張られすぎてしまい、別の答えも正解になってしまうことを見落としてしまう場合があります。問題文を作ったら、後で改めてチェックして、限定が効いていることを確認してください。

日本語での呼び方と外来語としての呼び方等、同義の言葉が別解として考えられる場合は、[「別解／正誤判定基準」](#)欄にその旨を記載するか、どちらか一方に限定できるよう問題文を改めてください。

#### ポイント 2: その答えには、発音や表記上の揺れはありませんか？

外国語をカタカナ表記する際には、表記揺れが発生しがちです。また、同じ外国語でも、原語の発音と英米圏での発音に隔たりがあることもあります。こうしたことについては、すべて完

壁に調べるのは不可能かもしれませんが、出来る限り広い範囲に渡って対応ができるように、別解としてピックアップしておきましょう。

## 2 知名度の高い題材を出そう

問題を作るにあたっては、問うべき題材を選ぶ必要があります。どのような題材を選ぶかによって、どのようなクイズの問題が出来上がるかは当然変わってくるものです。abc では「[基本問題](#)」を出題することをコンセプトとして掲げています。日常生活に根ざした知識や、学校・職場で学ぶことをもとに正解できるような題材を優先して選ぶようお願いします。

### ポイント:難しすぎる題材を選んでいませんか？

瑣末であつたり難解過ぎたりして正解が見込めない問題は abc では出題できません。また、いわゆる「クイズによく出る」題材でも、普段クイズをしていない人にとって触れる機会の乏しい題材は、abc においては出題の優先度が下がります。

### 2.1 昔の出来事／最近の出来事の出題基準

ある題材が有名であると感じるかどうかは、世代の違いなどにも左右されます。例えば、昭和の時代に大活躍したスポーツ選手の名前が、年配の方の知名度と同じくらい、若い方にとっても馴染みがあるとは限りません。また、近年の芸能シーン等においては、興味関心の細分化が進み、何が常識と呼べるかどうかは、同世代の中でも意見が大きく分かれるようになりました。これらの題材の取扱いについて、明確な基準を設定するのは難しいことです。ただ、一つの目安として、昔の出来事は「[最盛期を過ぎた後も常識とみなされたか](#)」、最近の出来事は、「[今だけでなく将来まで残ると思われる話題か](#)」を、参考にさせていただければと思います。

### 2.2 その他の理由による NG 題材

上記以外の理由でも、出題に不適当な題材であると判断されることがあります。

#### ◆重複による不採用

同一の切り口、同一の狭いジャンルから多数の問題を提出することはおやめください。abc ではなるべく多様なジャンルの問題を出題することを目指しています。

よく似た問題を多数提出した場合、その中から最大でも 1 問～数問しか採用されないことになり、他の問題が無駄になってしまいます。

どの問題を提出するか、事前に検討するようお願いします。

◆倫理的な理由による不採用

「本大会の参加者に出題するには明らかに不適切である」と判断した問題は不採用となります。

### 3 問題文のスタイルを守ろう

abc では、出題される問題の文体（スタイル）をなるべく統一するようにしておりますが、多くの方から問題を集めると、それぞれのスタイルに違いが出てくる可能性があります。

問題選定スタッフによる手直しなども行いますが、問題作成段階で、以下のスタイル・規定に従って問題を書くようお願いします。

#### 3.1 スタイル

言葉遣いについては、以下の形式に統一してください。

- 文末は「～でしょう？」とする。
- いわゆる「パラレル問題」は、「～ですが、～」とする。
- **体言止め**は使用しない。
- 作品名には『』（二重鉤括弧）を使用する。

#### 3.2 文字数の規定

abc では、問題文は**原則 60 文字以内**と規定しています。この規定に明らかに反する長い問題文は不採用となります。

問題文を短くすることを心がけるとともに、問題に盛り込んだ一つ一つの情報の必要性を提出前に再度検討するようお願いします。

##### ポイント 1:問題文の文字数は長すぎませんか？

ここで言う文字数とは、漢字仮名交じり文で、句読点や疑問符なども含めております。ただし、文章中に「問題文（もんだいぶん）」などのように、括弧書きでルビを書いた場合、括弧の部分は文字数には含めません。また、問題文中にアルファベット表記の外国語などが多く含まれる場合などはこの限りではありませんが、60文字を大幅に超過しないようお気をつけください。

##### ポイント 2:特に必要ない情報を盛り込んでいませんか？

問題文に個人的な思い入れを込めすぎたり、答えを限定しようとしたりするあまり、不必要な情報を盛り込んでしまう場合があります。

60 文字以内という長さの規定上、答えに至るための情報は過不足のない必要最小限の数に留める必要があります。余計な情報が入っていないか、一度問題文を検討することをおすすめします。

## 4 違和感のない問題文にしよう

日本語が不自然な問題文や、早押しでミスリードを誘う問題は不採用の対象になります。abc では、使用する問題は参加者が正解を出せるような問題文にすることを心がけています。すなわち、意図的に参加者を誤答させるような問題は出題しないということです。そのことに留意し、参加者の立場を考慮して、自然な問題文にするよう心がけてください。

### ポイント 1:問題文の「てにをは」「主語・述語」「修飾語」を正確に使っていますか？

時折ではありますが、助詞の使い方(いわゆる「てにをは」)が誤っている問題や、主語・述語の関係、修飾語のつながりの崩れた問題が提出されることがあります。

うっかり見落とすことのないよう、問題の提出前にいま一度のご確認をお願いします。

### ポイント 2:1 つの問題文で同じ表現を繰り返し使っていませんか？

1 つの問題文の中で「という」や「知られる」などの表現を繰り返し使ってしまうと、非常に読みにくい文になります。代わりの言い回しを用いてください。

### ポイント 3:答えのミスリードを誘っていませんか？

問題を途中まで読んだ時に、正解とは違う答えが想起される問題文になってしまうと、そこでミスリードが生まれてしまいます。

例えば「ある言葉に対する修飾語が非常に長い」場合に、ミスリードが発生するおそれがあります。問題の作成段階でこうしたミスリードが発生しないかを考慮してください。

### ポイント 4:自分の問題を声に出して読んでみましたか？

問題作成者の皆さんに強くお勧めするのは、自分の作った問題を声に出して読んでみることです。大会当日にも、問題は発声による読み上げで出題されます。

声に出したときに読みにくい箇所がないかどうか、ひっかかる場所がないかどうか、ご自身でぜひ確かめてみてください。

## あとがき

本文書では、abc での問題作成上の注意事項を述べてきました。制約事項も多く、お読みいただいた方の中には、かなり面倒だと感じ取った方もいらっしゃるかもしれません。しかしながら、abc の問題は、そうした質の高い問題を提出してくださる社会人の方によって支えられております。今後とも変わらぬご協力をくだされば幸いです。

また、今回初めて問題を提出される方は、守るべき事項の多さに圧倒されるかもしれません。しかし、abc では、10 問から問題を提出することができます。120 問が上限ですが、すべての方に 120 問の提出を求めているわけではありません。ですので、ご自身のペースで作問いただいた上で、abc にふさわしい問題を提出してもらえれば、問題数に関係なく、問題選定スタッフとして嬉しいことでもあります。どうぞ躊躇なく、問題作成にチャレンジしてください。

以上